

# 「夢のレベルはそれぞれでいい。夢をしつかりと持つてほしい。」

チーム再建後、再び全国の舞台へ

1990年の創部以来、高校選抜16回、インターハイ12回の出場を誇る大阪の名門・四天王寺高校。94年には、インターハイ団体で初出場初優勝という快挙を達成し、その後もロンドン五輪代表の小椋久美子氏らを輩出するなど、バドミントン界の歴史にも名を残す存在となっている。

その名門校で、創部時から監督・顧問を務めるのが藤岡毅至氏だ。ただし、藤岡監督はバドミントン経験者ではなく、前述の小椋氏を育てたことでも知られる西上正一コーチを中心として選手育成に携わってきた。藤岡監督は「私は統括マネジャーみたいなものなんですね」と話すが、それでも30年近くにわたってバドミントン部とともに歩み、苦楽を味わった。

実は四天王寺は、創部後すぐにインターハイで優勝を飾った華々しさから一転、小椋氏の世代を最後に以降3年間は部員の募集を停止した過去がある。元々は進学校である学校方針によるもので、コーチ陣も含めてチームは解散を余儀なくされた。